

日本酒で乾杯推進会議レポート

# 第7回「100人委員会」開く



山折哲雄氏



## 乾杯運動の今後のあり方などめぐり、充実の意見交換

### 宗教学者・山折哲雄氏が「勸盃と乾杯」をテーマに講演

第7回目の「100人委員会」(石毛直道代表)が、5月10日の午後、港区元赤坂の明治記念館で開催されました。会では、委員のひとりで宗教学者の山折哲雄氏が「勸盃と乾杯」と題して講演を行ったほか(上の写真)、「日本酒で乾杯推進会議」の活動や今後の乾杯運動のあり方などをめぐって意見交換。会議終了後には懇親の宴「日本酒文化を味わう会」も開かれるなど、年に一度の会合は、今回も充実した交流の場となりました。



会議が開かれた明治記念館・末広の間



石毛代表の発声で「日本酒で乾杯！」(左)  
「日本酒文化を味わう会」の様相(右)

出席者の  
顔ぶれ  
(50音順)




井川 直樹氏  
日本青年会議所会頭



石川 雄章氏  
日本醸造協会代表理事



石毛 直道氏  
国立民族学博物館名誉館長



桂 米團治氏  
落語家



加藤 登紀子氏  
歌手



神崎 宣武氏  
民俗学者



北本 勝ひこ氏  
東京大学大学院教授



木村 修一氏  
東北大学名誉教授



兒玉 徹氏  
財団法人醸造学会会長



阪田 美枝氏  
『日本の酒造り唄』著者・  
2千年紀和紙委員会事務局長



塩川 正十郎氏  
東洋大学総長



島田 律子氏  
日本酒スタイリスト



ジョン・ゴントナー氏  
日本酒ジャーナリスト



高橋 竹山氏  
津軽三味線演奏家



滝澤 行雄氏  
秋田大学名誉教授



辰馬 章夫氏  
日本酒造組合中央会会長



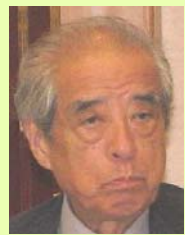
谷本 互氏  
財地域振興研究所  
常勤理事



玉木 武氏  
アルコール健康医学協会  
理事長



手島 麻記子氏  
日本酒スタイリスト



中村 靖彦氏  
東京農業大学客員教授



野田 聖子氏  
日本酒を愛する女性議員  
の会会長



本多 京子氏  
管理栄養士・日本体育大学  
女子短期大学講師



山折 哲雄氏  
宗教学者



山本 翔一朗氏  
評論家

## ◆ 各界有志が「乾杯運動」の支援へ結集。メンバー数は現在 94 名

日本酒で乾杯することを通じて、「日本酒と日本文化のルネサンス」をめざそうと清酒業界が立ち上がったのは平成 16 年 6 月。以後、運動の旗振り役である「日本酒で乾杯推進会議運営委員会」(西村隆治委員長)を中心に、丸 8 年にわたり「日本酒で乾杯」の普及、定着へ向けた活動が全国各地で繰り上げられてきました。

100 人委員会は、運動の主旨に賛同する文化、芸術、経済、スポーツなど各界有志によって平成 18 年に結成された「日本酒で乾杯運動」の支援組織で、年 1 回の会合をはじめ、乾杯の歴史を研究した『乾杯の文化史』の編纂・発行(平成 20 年、乾杯の文化史研究会発刊)、推進会議ホームページ(<http://www.sakedekanpai.jp/>)での「100 人委員会コラム」の連載、さらには、各メンバーそれぞれの分野における応援活動などにより、運動推進の強力なエネルギー源となっています。

現在のメンバーは平成 24 年 5 月 1 日時点で計 94 名。第 7 回目となる今回の会合には、石毛直道代表らメンバー 23 氏のほか、中央会から辰馬会長、岡本副会長、西村運営委員長らが参加して、今後の運動展開の意志の統一と懇親。プログラムに沿って概要をレポートします。

### ● 女性会員を増やすことが大事(石毛代表の挨拶)

開会の挨拶を行なった石毛委員長は、「東日本大震災から 1 年以上が過ぎた。おいしい日本酒の蔵元がそろっている東北の復興を心から願う」と述べた上で、「最近、大阪で開かれた東北の蔵元の試飲会に出席したが、驚いたことに参加者の半分以上が 20 代後半以上の女性だった。日本酒には成熟した女性のファンがたくさんいる。これからは女性の会員を増やすことも大事になると感じる」との考えを示しました。



### ● 桂米團治氏ら 6 氏が新メンバーに

「日本酒で乾杯推進会議」の活動報告を行った西村運営委員長はまず、会議の会員数が 3 万人を突破した(3 万 183 名)ことに触れ、「引続き 5 万人を目標に会員の拡大に取り組む」との方針を説明。また、100 人委員会のメンバーとして新たに、吉田敏臣氏(大阪大学名誉教授・大阪府環境農林水産総合研究所所長)、河内國平氏(刀匠)、玉木武氏(アルコール健康医学協会理事長)、桂米團治氏(落語家)、井川直樹氏(〈公社〉日本青年会議所会頭)、石川雄章氏(日本醸造協会代表理事・会長)の 6 人が就任したことを報告しました。

なお、今年度の主な活動計画のうち総会・フォーラム・懇親パーティと地方大会(島根大会)の開催予定は右のとおり。フォーラムは、『酒と芸能』Part4 として桂米團治氏に講師を務めていただく予定です。



#### 総会・フォーラム・懇親パーティの予定

・日 時 平成 24 年 10 月 2 日  
16 時～20 時 30 分

・会 場 明治記念館

#### 地方大会(島根大会)の予定

・日 時 平成 24 年 10 月 27 日  
14 時 30 分～20 時

・会 場 ホテルー畑

## ● 勸盃(献杯)と乾杯は何が違う？山折氏が講演

山折哲雄氏の講演「勸盃と乾杯」は、モンスーン文化圏に位置する日本の発酵文化の特色を論じつつ、日本に古来からある勸盃(献杯)と、乾杯の意味の違いを考えたもの。

この中で山折氏は「日本の発酵文化は食文化の根底を支えるものだが、東南アジアには日本、ベトナム、インドネシアを繋ぐ三角地帯が納豆文化圏、すなわちモンスーン地域における発酵文化圏を形成している」「食品の発酵文化は感情表現の発酵的性格と深く結びつく。日本とインドと西洋ではそれぞれ感情表現が異なる」などと指摘。また「高温多湿文化圏に置ける献杯の深い意味を考えた民俗学者・折口信夫は、古代日本で神の祭りを行なう場合、必ず神に酒を献じて歌舞音曲が始まったと書いている」として、そうした発酵的感情が芸能、飲酒文化とも強く繋がっていることを指摘した上で、「日本では出会いの酒と分かれの酒があって初めて酒が完結する。これは西洋の園遊会方式では味わうことのできないものだ」「献杯は人と人との出会いと別れのための盃、乾杯は園遊会方式の盃。性格が違う」と述べました。



### 山折哲雄氏のプロフィール

1931年生まれ。東北大学文学部卒業、同大学院文学研究科博士課程単位取得退学。国立歴史民俗博物館教授、京都造形芸術大学大学院長、国際日本文化研究センター所長などをへて、現在、国際日本文化研究センター名誉教授。専攻は宗教学・思想史。

主な著書に『絆いま、いきるあなたへ』(ポプラ社)、『法然と親鸞』(中央公論新社)、『愛欲の精神史』(小学館、和辻哲郎文化賞)、『涙と日本人』(日本経済新聞社)などがある。

## ● 日本酒の需要開発などで貴重な意見が

続いて行われた意見交換の時間では、今後の運動の方向、日本酒の需要開発などについて、「日本酒の輸出を拡大するためには、長い時間と資金をかけてイメージチェンジのためのPRに取り組むことが大切」(ゴントナー氏)、「お酒とスイーツの楽しみを発信すれば、女性や若者にアピールできる」(手島氏)、「イベントも大切。屋外で日本酒を飲むイベントを開催すれば、マスコミ、若者が注目してくれる」(島田氏)、「100人委員も機会ある都度、若者に日本酒をPRしていくこと」(兒玉氏)、「デパートなど末端の販路をもっとプッシュすべき」(山本氏)、「山折先生のお話で、秋のフォーラムで何を話したらいいか示唆をいただいた」など、委員の間から貴重な意見が相ついで出されました。



## ● 16年ぶりに対前年増。推移見て底打ち宣言を

会議の最後には中央会の辰馬会長が挨拶。「日本酒は23BYで16年ぶりに前年を上回った。もう少し推移を見極めて、大々的に底打ち宣言をしたいと思うが、今日はそういう我々の背中を押してくれる、日本酒との出会い創出のご意見をたくさんいただいた」と述べて、委員への謝意を示しました。



## ◆ 出席者そろって和やかな歓談のひと時－「日本酒文化を味わう会」

100人委員会終了後に開かれた「日本酒文化を味わう会」では、はじめに「日本酒で乾杯！」の杯を掲げた後(表紙写真)、日本酒と和洋の美味を囲んで和やかな歓談のひと時。最後は桂米團治氏に合わせて、一門恒例の米朝締め(最下段左末端の写真)を行なってお開きとなりました。

